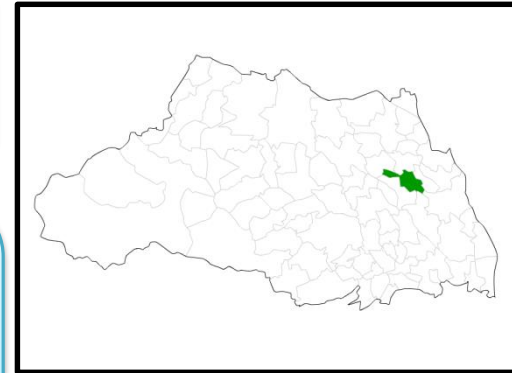


# 令和2年度 白岡市地域公共交通確保維持改善協議会 (埼玉県白岡市) (地域内フィーダー系統確保維持事業)



## 地域の公共交通等の現況

白岡市は、面積24.92K㎡の市域の中央をJR宇都宮線が縦断し、二つの鉄道駅(白岡駅、新白岡駅)を有している。

本市の路線バスは、「JR白岡駅西口・菖蒲仲橋」「JR蓮田駅東口・菖蒲仲橋」「JR蓮田駅西口・菖蒲車庫」の3路線である。いずれもJR宇都宮線の西側地域を運行する路線であり、JR宇都宮線の東側地域では路線バスが全く運行されておらず、また、3路線のうち2路線は、JR蓮田駅を起点として市域の一部を経由し、久喜市へ運行するものであり、市民の利用者は一部に限定されている。なお、本市では、平成11年に「町内循環バス」の運行を開始したが、利用状況や運行経費などを勘案し、平成19年3月に廃止した経緯がある。

## 交通計画の目指す概要／地域公共交通に関する施策・取組の概要

JR宇都宮線東側の交通空白地域における高齢者などの移動手段の確保は大きな課題となっている。市民の通院・買物などの日常生活における移動手段を確保し、交通利便性の向上を図るため、費用対効果の高い地域公共交通サービスを構築し、維持していくことが必要である。

## 交通施策として実施した事業の全体像の概要

本市では、協議会での検討の結果、公共交通を利用する需要が市域内で分散していることを踏まえた上で、高齢者や駅・バス停から離れた地域の居住者などを主な対象者として日常生活における移動手段を確保することを目的にデマンド交通の運行を行っている。

## 補助対象事業の概要

公共交通空白地域を解消するため、デマンド交通の運行区域を市域全体とし、また、デマンド交通の運行により、高齢者や駅・バス停から離れた地域の居住者などの買物や通院などの日常生活に必要な移動手段を確保している。

### 【デマンド交通「のりあい交通」】

事業者名: 昭和タクシー  
運行区域: 市内全域  
運行日: 月曜～土曜(祝日、年末年始運休)  
運行時間帯: 8時30分～17時30分  
運行本数: 9便/日  
運行車両: セダン型車両  
運賃: 500円(障害者、小学生は300円、乗り合い利用の割引制度あり)

面積	24.92k㎡	
人口 (R2.4.1時点)	52,414人	
	15歳未満	6,563人
	65歳以上	14,339人
高齢化率	27.4%	
世帯数	21,759世帯	

## 交通計画の策定年月日

計画作成なし

## 協議会開催状況

○協議会の開催状況 5回開催  
・第28回(1月21日)  
事業評価について  
・第29回(5月25日)(書面開催)  
フィーダー系統保持計画について  
・第30回(6月29日)(書面開催)  
課題・今後の方向性について  
・第31回(8月4日)(書面開催)  
コロナ禍における運行について  
・第32回(8月19日)  
のりあい交通における課題事項の今後の方向性について  
・第33回(10月13日)  
公募型プロポーザル実施要領、仕様書(案)  
・第34回(11月25日)(書面開催)  
公募型プロポーザルの選定結果について  
・第35回(1月21日)(書面開催)  
事業評価について

## 前回の事業評価結果の反映状況

- ・新型コロナウイルスの影響を受け、例年実施しているイベントでの啓発等はできなかったが、広報紙やホームページを活用し制度の周知と理解促進を図ることができた。
- ・市民を対象とした出前講座を実施し、制度の理解促進、利用登録者の増加を図る予定であったが、新型コロナウイルスの影響を受け、実施することができなかった。
- ・平成30年4月から12時30分からの1時間の運行を開始し、利便性の向上を図った。

## 定量的な目標・効果

### 【目標】

- ・1日当たりの利用者数を42.5人とする。
- ・収支率を20.0%以上とする。
- ・5便の利用定着と利用の少ない7、8、9便についてピークとなる2便の半数程度の利用者を3人/便以上とする。

### 【当該目標・目標値を設定した理由】

- ・公共交通空白地域を解消し、持続可能なデマンド交通を構築するため、利用者の増加を図る。

### 【効果】

- ・デマンド交通の運行区域は、市域の全体となるため、公共交通空白地域が解消される。
- ・デマンド交通の運行により、高齢者や駅・バス停から離れた地域の居住者などの買物や通院などの日常生活に必要な不可欠な移動手段が確保される。

## 目標・効果の達成状況

【指標①】・7・8・9便の1便当たり利用者：2.5人、2.4人、2.0人

### 【目標を達成できなかった要因(分析)】

・7・8・9便については、1便当たり利用者目標が3人であるところ、それぞれ2.5人、2.4人、2.0人となり目標を達成できなかった。新型コロナウイルス感染拡大防止策により不要不急の外出自粛が要請されていたこともあり、外出控えが要因と考えられる。

### 【指標②】

- ・1日当たりの利用者数：30.5人
- ・収支率：15.5%

### 【目標を達成できなかった要因(分析)】

・1日当たりの利用者数が目標の42.5人に対して30.5人となり、収支率が目標の20.0%に対して15.5%となった。1日当たりの利用者数、収支率ともに目標に到達することはできなかった。新型コロナウイルス感染拡大防止策により不要不急の外出自粛が要請されたこともあり、外出控えが要因と考えられる。

### 【効果】

・コロナ禍においても病院や買物等、日常生活の移動手段として利用されており、必要不可欠な公共交通として浸透している。

## アピールポイント

地域からの意見・要望に耳を傾け、乗降場所を増やすなど、実現可能な事項は対応している。  
また、同時に2人以上で利用する際に、運賃を割り引く「乗り合い割引制度」を設け、効率的・効果的に事業運営ができるよう工夫している。

## 今後の改善点

現在の利用者、未利用者関わらず広くアンケートを実施し、市民の声を聴くとともに、運行実績を分析し、適切な改善策を実施する。  
協議会において、効果的、効率的な運行について、分析、協議をした結果、令和3年4月からは、利用者の多い1～4便の3台運行を実施し、輸送力を強化することで利用者の増加を図っていく。